

1. 評価報告概要表

作成日平成20年10月12日

【評価実施概要】

事業所番号	1174501153
法人名	有限会社 いなすず
事業所名	グループホームいなすず
所在地	〒360-0232 埼玉県熊谷市道ヶ谷戸238 (電話) 048-567-2103

評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	〒330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成20年10月7日

【情報提供票より】(平成20年9月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年5月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤 9人, 非常勤 11人, 常勤換算	16人

(2) 建物概要

建物構造	平屋造り
	1階建ての1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	20,000円 + 実費	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(20,000円) 但し保証人がいる場合は無	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
	または1日あたり 円			

(4) 利用者の概要(9月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	4 名	要介護2	3 名		
要介護3	9 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84 歳	最低	71 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	原口外科病院、埼玉慈恵病院、鈴木歯科医院、たまがわクリニック
---------	--------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、平成17年5月1日に開設され、平屋建て2ユニットで運営されている。静かな田園地帯に位置し、リビングと食堂は菜園や花壇に面していて自由に入出入りすることが出来、明るい雰囲気の中でゆったり過ごすことが出来ている。地域の人たちとの連携も良く、「のんきに、よきき、ほがらかに」の理念に基づき、管理者を中心として職員が一つにまとまり、職員や利用者との会話も和やかで、理念に合った温かいケアが提供されているホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>運営推進会議は今年度2回実施され、2か月に1回の実施に向け努力している。同業者との交流については地域包括支援センターを通して妻沼地区の4施設で交流し勉強会が計画されている。重度化、終末期に向けた方針の明文化については継続して検討が要される。災害対策については年2回の避難訓練や地域及び消防団の協力が得られている。各項目で改善に向けて努力され職員会議等で改善に取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員は外部評価の意義と必要性を理解しており、一人ひとりが記入して、職員会議で話し合いの上ホームとして自己評価を作成しており、課題を明らかにして活用しようと取り組んでいる。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議には、自治会長、民生委員、消防団長、家族の代表、市議会議員、地域包括支援センター、利用者の代表、職員などが参加している。会議では、消防訓練や災害発生時の協力体制、行事の計画などについて話し合っている。今年度は4月と8月に実施しているが、今後も定期的な開催を検討中である。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>利用者には担当者が決められており、月に1度金銭管理の報告とともに家族に近況報告をしている。また、電話や面会時に意見交換をしているほか、運営推進会議でも家族の意見を聞ける体制になっており、意見等は運営に反映されている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の自治会に加入しており、老人会に参加したり、交流のある地域の小学校や幼稚園の運動会などに招待されている。また、ボランティア活動や野菜の差し入れなどがあり地域住民との連携が保たれている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「のんきに、よきき、ほがらかに」を事業所の理念として掲げ、住み慣れた地域の中で生活するための支援を意識しながら取り組んでいる。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は理念を共有し、毎日の暮らしの中で理念の実践に向けてケアに努めている。また、利用者一人ひとりの状況に合わせて、話を聞いたりしながら、毎日の生活を楽しく送れるように取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会に加入しており、老人会などにも参加している。近隣の小学校や幼稚園とも交流があり、行事を見学したりしながら馴染みの関係が保たれている。また、地域の方がボランティアとして訪問することもある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は外部評価の意義と必要性を理解しており、自己評価については、職員が一人ひとり記入して、職員会議で話し合いの上ホームとして完成されている。また、前回の外部評価で挙げられた課題については、改善に向けて全員で取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、自治会長、民生委員、消防団長、地域包括支援センター、家族及び利用者の代表、職員などの参加を得て意見交換している。今年度は4月と8月に行われており次回は防災訓練について話し合う予定である。		2か月に1回の実施に向けて努力されているため、今後も定期的な開催を目指して継続的に計画実施されることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の生活福祉課への事業所の近況報告などを通じて連携が取れている。また、行政センターのケアマネジャーと情報交換がされている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月の金銭管理の報告にあわせて、担当者により近況報告も行われている。また、必要時には電話による連絡もしている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話などで家族とのコミュニケーションを取れる機会を設けたり、意見箱も設置している。意見や苦情のあった場合は職員会議で話し合い、申し送り簿でも周知され再発防止に努めている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	退職者が出た場合は、利用者に挨拶し不安を与えないように職員間でフォローしており、これまで特に問題は生じていない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は職員会議で必要に応じて行われているが定期的ではない。また、外部研修にはホームに届いた情報から順次希望者が参加しており、研修報告書の提出により職員に情報提供している。年間研修計画は立案されていない。		研修については年間の計画を作成し、職員一人ひとりがスキルアップできる体制作りが望まれる。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北部地区のグループホーム協議会の研修に参加している。また、今年度から地域包括支援センターを通して妻沼地区の4施設との交流をもち、勉強会を計画している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>病院や施設から直接入居される方もいるため、家族からも十分な説明をしてもらい情報収集をしている。入居前の見学も受け入れて希望に沿った支援につながるよう努めている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>家族や利用者の意向を大切に、お互いに支えあえる関係を作っている。また、利用者の知識や経験を活かし、畑仕事や花壇づくり、調理などを職員と一緒にしながら教えられたり相談する関係が築かれている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>生活歴や日々のかかわりの中で、利用者の思いや意向を把握し、必要に応じた支援を行っている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>家族や利用者からの情報と担当職員からの情報を基にケアカンファレンスが開かれ、様々な意向が反映されるよう努めながら介護計画が作成されている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>利用者の身体的、精神的な状態に変化のあったときは、ケアカンファレンスで見直しを行い、新たに計画が立案されている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の情報を把握しながら支援している。通院受診の介助や外泊、買い物など、本人や家族の状況や要望に応じて支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族が希望するかかりつけ医への受診を支援している。受診結果は家族に報告され、介護記録にも記載されている。また、職員には申し送りノートでも周知している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	過去には家族の希望で終末期の介護を行った事例はあるが、ホームとしての支援のあり方や方向性についての明確な方針は明記されていない。		今後、繰り返し行う話し合いの中で関係者全体により方針の統一を図るとともに、事業所としても方針を明示して共有していくことが望まれる。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	居室を訪ねる時をはじめ、プライバシーを損ねないように対応に配慮している。また、個人ファイルは適切に管理されている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活のペースを尊重し、個々の時間の流れに沿った日々が過ごせるように、職員は利用者の表情や動作に留意し、思いを汲み取りながら支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食前・食後の挨拶や、食事の準備や片付けなど職員と一緒に楽しみながらの食事が出来ている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の入浴が可能である。また、入浴時間は利用者のペースに合わせて楽しみながら入浴できるようタイミングをみながら支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や能力に応じ、洗濯物たたみや掃除など役割を持った張り合いのある生活を送れるような支援に努めている。利用者の中には、菜園での野菜づくりや草むしり、花壇づくりなどを自主的に行っている方もいる。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は散歩が日課になっている、利用者も楽しみにしている。月に1度の買い物デーや誕生会の外食を取り入れるなど、工夫をしながら外出支援を行っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関はオートロックになっているが、リビング・食堂からは菜園や花壇へ自由に入出入りすることができ開放的である。また、庭にはベンチが置かれ自由に寛げるようになっている。なお、利用者に外出したい様子が見受けられた際は、職員と一緒に付き添って外出するようにしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練が行われており、地域の消防団や地域住民の協力体制も出来ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量についてはチェックし記録されている。また、利用者の状態によっては粥食や刻み食で対応するなど、工夫をしながら提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は機能的に配置されており、季節の装飾や草花が活けられ、食堂は菜園に面しているため明るく、ゆったりと過ごせる場所になっている。また、庭にはベンチが置かれ自由に寛げるようになっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的な物は事業所で準備しているが、本人や家族の意向で使い慣れた馴染みの家具などが持ち込まれ、安心して過ごせるように配慮している。		